



「第二十一回幸手市民まつり」で自衛隊をPR

自衛隊埼玉地方協力本部は、さいたま地域事務所担当により、十一月九日(日)幸手市商工会主催の「第二十一回幸手まつり」に参加し、募集相談員の協力を得て広報活動を実施した。幸手市民まつりは毎年、市民によるまちづくりの推進と市内産業の振興及び地域コミュニティの進展を図ることをコンセプトに、東武日光線幸手駅ロータリーから、国道四号線までの約五百mの道路を歩行者天国にして大々的に開催されている。

なかでも自衛隊ブースは国道四号線側に堂々展開し、高機動車の展示及びミニ制服の試着等を行い、幸手市民及び観光客の方々に自衛隊を多いにアピールし絆を深めた。また広報官・募集相談員による適齢者に対しての募集説明により、志願意欲の向上に努めた。

埼玉地方協力本部は、今後も地域住民との絆を更に深め自衛隊に対する理解と協力を求めるべく各種イベントに積極的に参加し、新たな戦略を試みながら入隊適齢者の獲得に努めていく。



第十九回吉川市民まつり」で自衛隊をPR

埼玉地方協力本部は朝霞地域事務所担当により、十一月十六日(日)吉川市民交流センター「おあしす」において開催された第十九回吉川市民まつりに参加し吉川市父兄会及び募集相談員の協力を得て広報活動を実施した。吉川市民まつりは平成八年に始まり、十九回目となる今回は、「明日があるみんなのまち吉川市民まつり」をテーマに、明日に希望を持ち、みんなが楽しめる市民まつりを目指し「健康福祉」「商工」「農業」「交通安全」「市民交流」の五部門で実施された。

今回二回目の参加となる埼玉地本の広報ブースでは、自衛隊募集のDVD放映、災害派遣の写真パネルや南極の氷、高機動車等装備品の展示とともに、ミニ迷彩服とサイボン(そら)との撮影会、自衛隊募集のペーパークラフトの配布を行った。

当日は快晴で気温十六度の暖かい陽気であり、まつり開始前から自衛隊ブースに来場者が訪れるほどであった。広報官は、絶え間なく訪れる来訪者に、笑顔で積極的に対応した。

広報ブースに展示した南極の氷を興味深く眺めていた女性は、「数万年前の空気の音がきけるなんて、ロマンチックですね。貴重な体験をさせていただきました。」と話していた。埼玉地方協力本部は、今後も効果的な広報イベントを実施し、積極的に募集基盤の強化につなげていきたいと考えている。



第三十六回「川島町農業商工祭」で自衛隊をPR

埼玉地方協力本部は入間地域事務所担当により十一月二十三日(日)、第三十六回川島町農業商工祭において広報ブースを初めて展開した。

今回、川島町からの強い要望があり、埼玉地本が初めて募集広報を実施することになったのである。農業商工祭は一万人を超える来場者が見込まれるイベントとなっており、特に高機動車は、存在感があり広報ブースにはたくさんの方々が訪れていた。

ブースでは災害派遣の写真パネルや、航空機のポスター配布等を行った。その中でも募集相談員の村伸一さん自作のビデオ放映が多くの来場者の足を止め集客に大いに貢献した。さらにミニ戦闘服の試着コーナーは、小さいお子さんに大人気で、順番待ちの行列ができるほどの大盛況であり、ミニ戦闘服を着た子供たちは満面の笑みを浮かべて記念写真を撮ってもらっていた。

また自衛隊に興味がある父兄からは「貴重な話を聞くことができ、とても勉強になりました。災害派遣で活躍する自衛隊に感謝しています。」と嬉しそうに話していた。

イベントは大きな広報成果を残し幕を閉じた。埼玉地本は今後も地域のイベントに参加し、募集広報を実施して、積極的に募集基盤の強化を図る所存である。

